
【テキスト中に現れる記号について】

《 》：ルビ
(例) 頸《うなじ》

[#]：入力者注 主に外字の説明や、傍点の位置の指定
(例) [#ここから3字下げ]

あなたがたはゼライドの話を知つてゐますか？ ゼライドは美しい王女です。何でも文献に徴すれば、足は蠟石の如く、腿は象牙の如く、臍は真珠貝の孕める真珠の如く、腹は雪花石膏の甕の如く、乳房は百合の花束の如く、頸《うなじ》は白鳩の如く、髪は香草の如く、目は宮殿の池の如く、鼻は城門の櫓の如くだつたと言ふのですから、万人に一人もない美人だつたのでせう。このゼライドも年ごろになるにつけ、誰か然るべき相手を定めて結婚することになりました。これは若し日本だつたとすれば、親戚とか知人とか乃至女学校の校長とか、甚だ当てにならぬ人物に媒介を頼む所だつたでせう。又西洋だつたとすれば、母親とか姉とかを参謀にし、未来の夫をつかまへる策戦計画を立てたかも知れませんが。しかしゼライドは王女だつた上に大へん賢い生れつきでしたから、彼女自身の目がねにかなつた王子か宰相の子を選ぶことにしました。次に掲げる候補者表はゼライドの結婚に志《こゝろざ》した後、三年七ヶ月十六日の間に出来上つたものだと言ふことです。原文は「東洋文庫」の「アラビア」の部の「Z《ゼツト》」の百三十八号文書にありますから、篤学のかたは読んで御覧なさい。ここには唯人名などを除いた大略だけを写すことにしませう。

第一号。印度の王子。体格は頗る堂々としてゐる。が、余り聡明ではない。一度などは象を山と間違へ、もう少しで踏み殺されやうとしたと言ふことである。

第二号。ペルシアの王子。女のやうに美しい代りに荒淫も亦甚しいさうである。現在でも妃六百人、姫嬪二千三百人、女奴隷 女奴隷は何万人あるか、誰一人見当さへつかないらしい。

第三号。ゼライド自身の国の宰相の子。年のまだ若い癖に学問と才智とに富んでゐる。しかし背むしに生まれつuitたのは如何にも残念と言はなければならぬ。

第四号。バビロニア王。金銀珠玉を貯へてゐることは或は世界第一であらう。唯憾むらくは残虐を好み、屢侍女の耳などを削いで玉葱と一しよに食ふさうである。

第五号。支那の王子。ペルシアの王子に勝るとも劣らぬほどの好男子らしい。けれども大の無精ものと見え、鼻涕《はな》をかむのさへ宦官たちにかんで貰ふと言ふことである。

第六号。リディア王の宰相の子。別にこれと言ふ欠点はない。が、先妻や側室の子が二十五人あり、その中の一人は両脚とも鶏になつてゐると言ふ怪物である。

第七号。メディア王の宰相の子。武勇に富んでゐると言ふ評判である。しかし今は借金の為に父親の首も売り兼ねないらしい。

第八号。ユダヤ王の宰相の子。詩や音楽に巧みださうである。けれども男色を好んでゐるから、到底結婚などはしないであらう。

第九号。エジプトの王子。容貌も美しいし、学問にも富んでゐるし、その上弓を引かせては誰も並ぶもののないと言ふことである。この王子と結婚するのならば、沙漠の長旅も楽しいかも知れない。あしたにも早速両陛下に、 今しがた聞いた所によれば、王子は生憎水浴中に鰐に食はれてしまつたさうである。

第十号。魔神《デモン》の王デアン・ベン・デアン。居所不明。

勿論候補者は必しもこれだけと言ふ訳ではありません。現に「東洋文庫」のアラビアの部の「Z」の百三十八号文書は実に二百八十人の候補者の名を挙げてゐます。が、畢竟どの候補者もゼライドの希望に副《そ》はなかつたのでせう。ゼライドは毎日侍女を相手に、柘榴やサフランの花の咲いた王宮の中に暮らしてゐました。しかし我々を支配する恋愛はこの美しいアラビアの王女をも捉へない筈はありません。或月の澄み渡つた晩、ゼライドは彼女の恋人と一しよにそつと王宮を抜け出しました。アラビアの恋愛至上主義の詩人、「大いなる」デジアアルはかう彼女のことを歌つてゐます。

[#ここから3字下げ]

ゼライドよ！ 沙漠の薔薇よ！

君の恋人は幸ひなるかな！

君は君の恋人の杖、

君は君の恋人の齒、

君の恋人は恵まれたるかな！

おう、ゼライイドよ！ 沙漠の泉よ！

[# ここで字下げ終わり]

「君の恋人の杖」や「君の恋人の齒」は多少妙に聞えるかも知れません。が、美しいゼライイドの恋人は あ
なたがたはどんな男だつたと思ひますか？ 行年七十六とか言ふ、醜い黒ん坊の奴隷だつたのです。

底本：「芥川龍之介全集 第十二巻」岩波書店

1996（平成8）年10月8日発行

入力：もりみつじゅんじ

校正：松永正敏

2002年5月17日作成

2003年5月11日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。